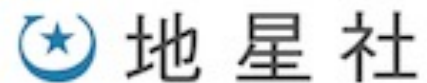


特定非営利活動法人 地星社

第9期 事業報告書

2020.4.1 - 2021.3.31



私たちが目指すもの(ビジョン)

私たちひとりひとりが地域づくり・社会づくりにかかわっていく社会の実現。

そのために私たちがすること(ミッション)

社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援し、増やしていく。

活動において大事にしたい原則

1. 信頼の原則

人や組織には、社会を変える力が本来備わっていることを信じ、その力が活かされるよう後押しする。

2. 互敬の原則

人を大事にし、互いに敬い合う関係性を築く。

①地域支援へのシフト

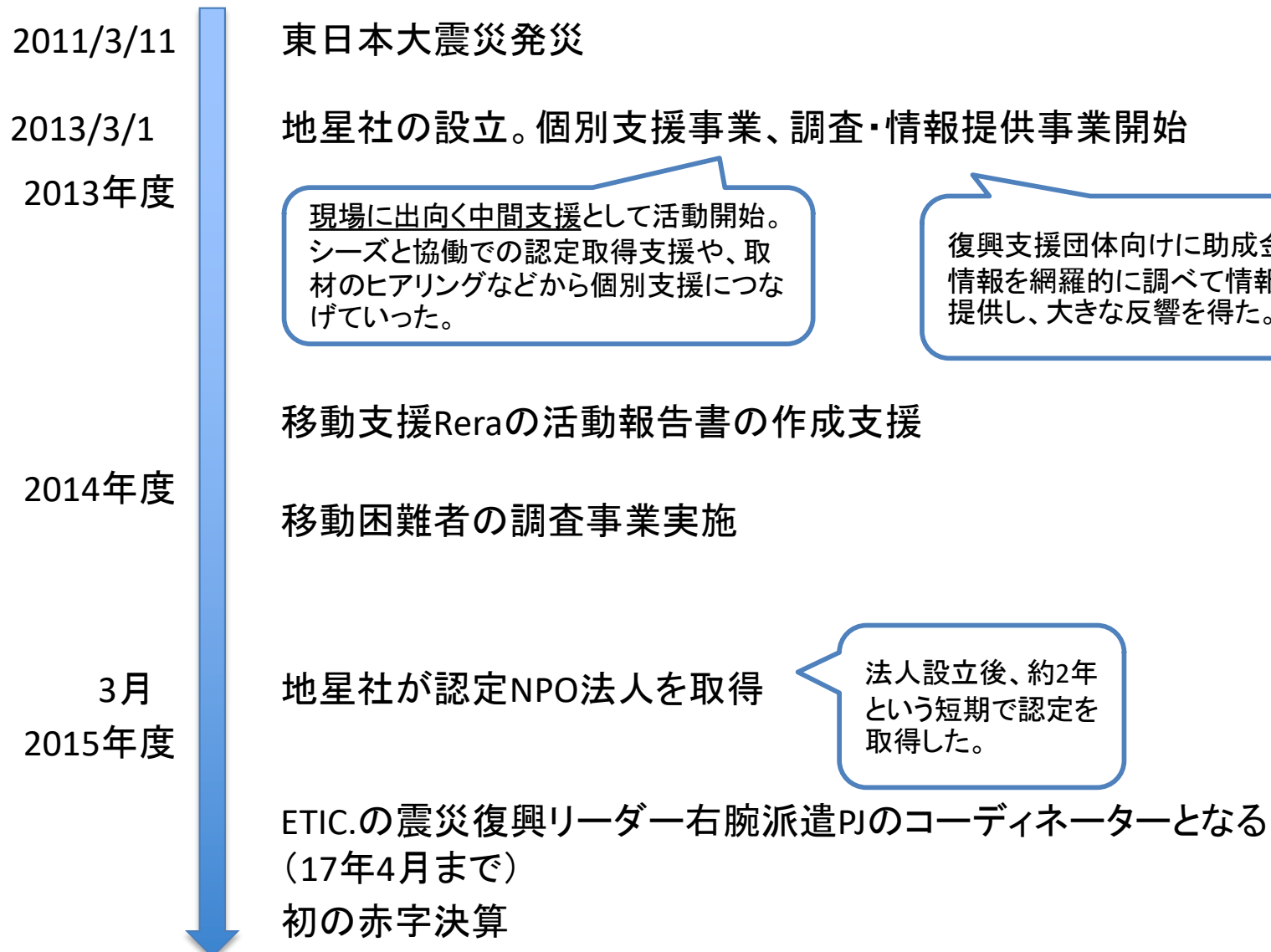
昨年度に引き続きソーシャルライター講座を実施し、今年度は名取で活動する5団体取材して記事にした。また、今年度から岩沼市市民活動サポートセンターの相談員を担当し、毎月1回市民活動相談を行った。2019年度から地域支援に取りかかり始めたが、そうした活動がより進んだ。

②新型コロナの影響とデジタルへの移行

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面での相談対応や会議が難しくなった。こうした活動や、会計・業務報告などの管理業務をオンライン化し、コロナ禍においても活動が継続できる体制を整えた。

③新しい参加・協力の形を模索

オンラインでの活動が増えたため、協力者・参加者もオンラインでということが増えた。例えば、復興支援団体へのインタビュー事業では県外の協力者にZoomインタビューに同席してもらい、原稿作成への協力を得た。また、ソーシャルライター講座についてもオンラインで実施することで遠方の方にも参加してもらうことができた。こうした新しい形の参加・協力が増えた一方、会員・寄付者の増加にはつなげられなかった。



設立期

2016年度

宮城県絆力補助事業に採択される
(20年度まで毎年応募し、連続して採択)

それまで常勤1名体制だったが、
初めてアルバイトを雇用した。

クラウドファンディングの実施(約56万円達成)

被災地・地域活動団体ガイドブック
の発行費用への協力を呼びかけた。

被災地・地域活動団体ガイドブックの発行
赤字決算

県内被災地で活動する団体の情報
を網羅的に集めたものとして支援団
体・機関から評価された。

2017年度

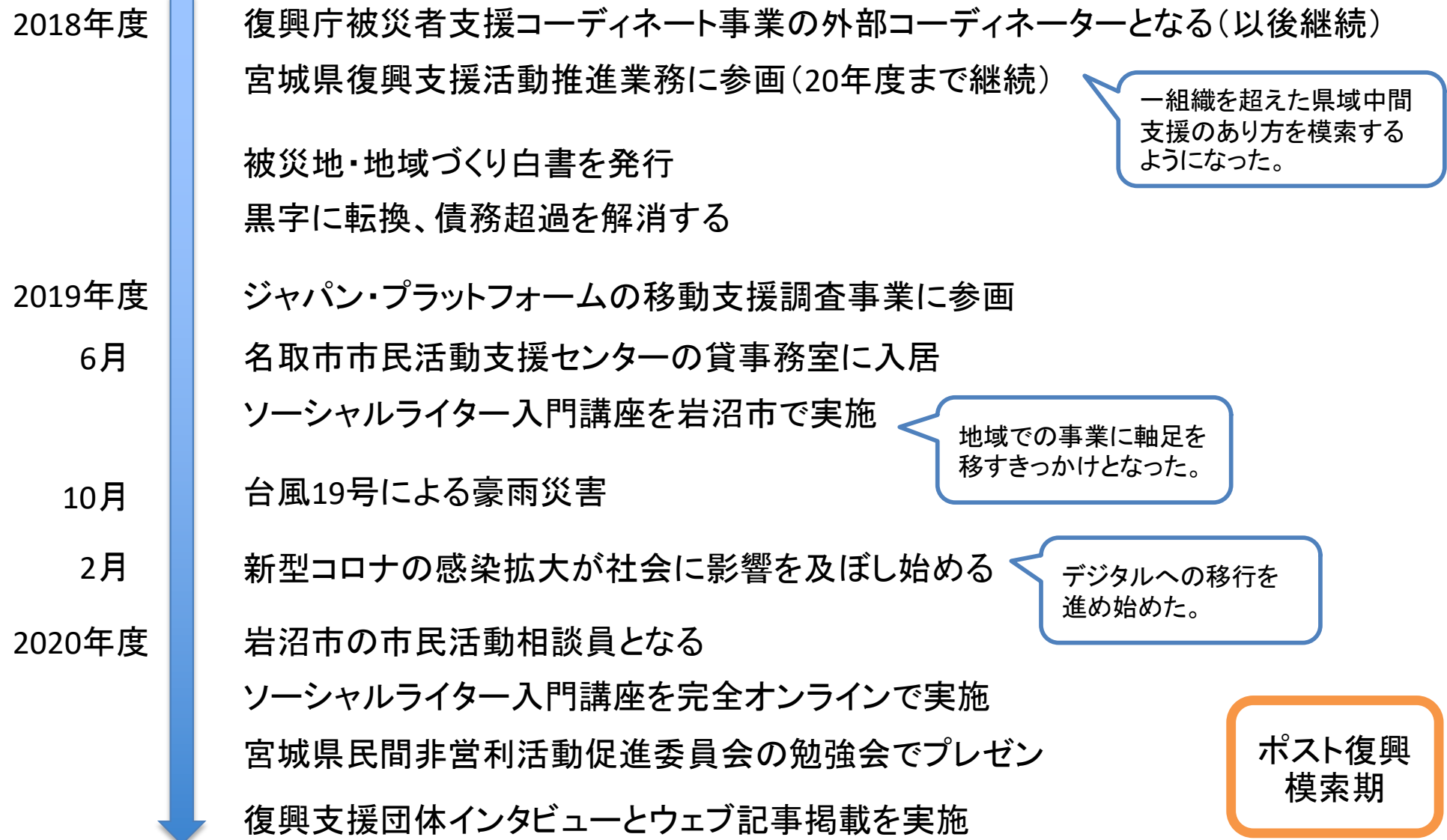
トヨタ財団の助成を受け、被災者支援員・復興支援員の調査事業を実施

宮城県サポートセンター支援事務所、東北圏
地域づくりコンソーシアムとの連携事業。「当事
者性を持った支援」「市民的専門性」というキー
ワードの発見につながった。

被災地・地域活動団体ガイドブック(2018年版)の発行

3年連続の赤字決算で債務超過となる

展開期



事業分野	事業／内容
A 相談・個別支援	1. 相談・個別支援(相談対応、内部研修の支援等)
	2. 復興庁被災者支援コーディネート事業
	3. 宮城県復興支援活動推進業務
	4. 岩沼市市民活動サポートセンター活動支援業務
B 調査・情報提供	復興支援団体インタビュー記事作成
C 人材育成	ソーシャルライター入門講座
D その他	宮城県絆力交流事業、宮城県民100の提言編集委員会、Yahoo!基金 知らせる力PJ、講師派遣等
組織運営に関する業務	理事会・総会等の会議、会計・税務、労務、会員管理等

※「B 調査・情報提供」の「復興支援団体インタビュー記事作成」と「C 人材育成」のソーシャルライター入門講座は、いずれも「宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業」の補助を受けて実施しているが、会計を分けることが困難であるため、活動計算書上は2つを合わせて「B 調査・情報提供」に区分している。

組織内外の課題への主体的な取り組みを支援しました。

事業の背景

震災後、新しく立ち上がった復興支援団体への個別支援の必要性を感じたことが、地星社をつくったきっかけの一つであり、設立当初から資金調達や法人運営、認定NPO法人取得などのテーマで継続的な個別支援を実施している。

このように、相談・個別支援は地星社の基本となる事業であり、現在は特に、地星社が依頼を受けて企画・実施する方法から、研修やワークショップをしながら支援先団体と一緒に課題解決について考える方法に変えて、団体の主体性を尊重するようにしている。

事業概要

目的

調査・計画づくり・評価等についての個別支援をすることで、組織基盤強化や課題解決を促進させる。

実施内容

依頼を受けて随時個別相談を実施。必要な場合は支援計画を立て、プロジェクトとして行った。

種類		実施内容	担当
相談		団体からの随時の個別相談に対応した。内容はコロナ禍における総会の開催方法など。A-2の被災者支援コーディネート事業で対応したケースも多く、単発の相談は少なかった。	布田
個別支援	(特活)いるか	子ども支援事業のビジョン・ミッション策定などについて、月1回(計10回)の相談対応もしくは会議ファシリテーションを行った。	布田
	(公財)共生地域創造財団	コロナ禍で居所を失った方を支援する事業について、報告書のコンテンツを考える会議のファシリテーションを行った(1回)。	布田
	(特活)奏海の杜	クラウドファンディングの実施についての相談対応(6回)と、それに伴う活動紹介のためのオンラインイベント(1回)を行った。	布田

成果

全体的に、支援先団体において課題に取り組むにあたり、チームとしての協力体制が整うことを意識して取り組んだ。

クラウドファンディングの支援では、当初目標額の3倍超となる300万円を達成することができた。

今後の展望

取り組む内容によっては被災者支援コーディネート事業(A-2)と重なるところもあることと、地星社として地域の面的な支援に重点を置くようにしていることから、個別支援は必要性を見極めながら取り組むことを検討したい。

伴走支援プログラムで認定NPO法人申請やポスト復興の組織づくりをサポートしました。

事業概要

事業目的

被災者が安定的でよりよい日常生活を送ることができるようになることを目指し、復興の主体である被災者や被災者支援に取り組む多様な担い手(自治体・支援組織・企業等)による活動の推進を総合的に支援する。

事業の実施体制

本事業は、復興庁被災者支援総合交付金被災者支援総合事業の一環として行われたもので、宮城県では(一社)みやぎ連携復興センターが採択されて実施したものである。

地星社は同センターからの委託で、主に県南エリア担当の地域コーディネーターとして関わった。本事業には2018年度から参加している。

業務内容

- ①被災者支援に取り組む多様な担い手の現状・課題の把握・整理
- ②被災者支援体制の構築・強化に向けたコーディネートの実施
- ③事業推進に係る各種ミーティングへの参加
- ④本事業の一環として実施される各種イベント・研修等の運営支援

(担当: 布田)

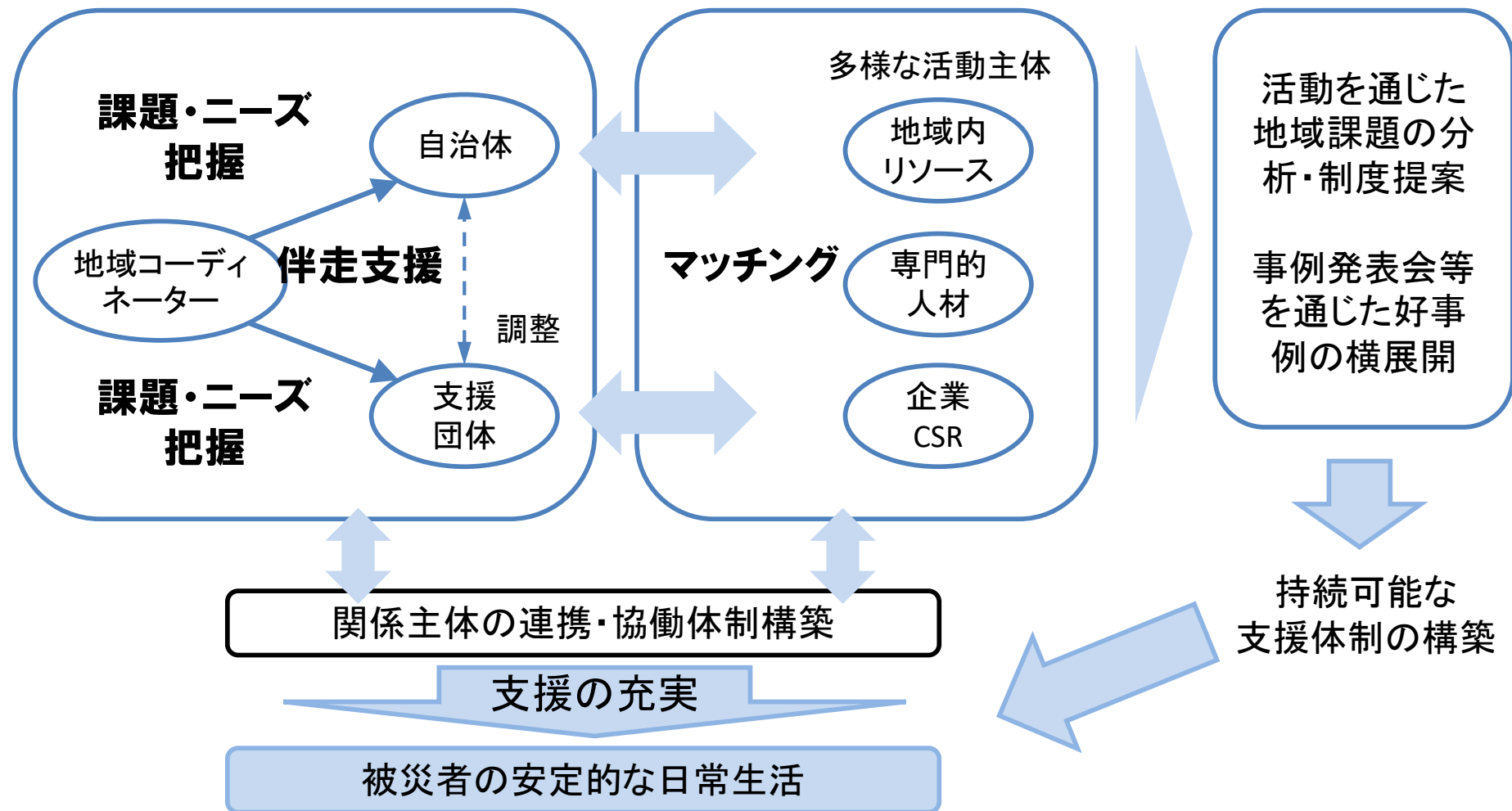
成果と今後の課題

伴走支援プログラムでは、外部専門家の協力も得ながら、2団体が認定NPO法人の申請ができたのは一つの成果である。

なお、本事業はこれまでコーディネーター一個人に任されている部分が多かったが、チームとしての取り組みや、外部の団体との連携・協力体制をつくり、地域で協働をより促進していくことが課題である。

活動イメージ図

(委託元資料をもとに作成)



種類	実施内容
団体・機関のヒアリングおよびコーディネート	法人運営、ポスト復興の支援のあり方、認定NPO法人の取得、事業コンセプトの整理などの内容で、35の団体・機関に延べ46件（ヒアリングを含む）対応した。主に県南地域の担当だったが、気仙沼から丸森まで、幅広い地域・団体にかかわった。
会議・イベント参加	支援団体間の会議や本事業に関連する会議等、延べ31件に参加した。
伴走型組織づくり支援プログラムの実施	（特活）シーズ・市民活動を支える制度をつくる会の関口宏聡さんと一緒に復興支援団体の組織づくり支援プログラムを実施し、3団体の伴走支援を行った。主に認定NPO法人取得や、新たな法人形態の検討についてのアドバイスをを行った。

復興支援から平時の地域づくりへの移行を見据えながら事業に取り組みました。

事業概要

事業目的

県内市町が設置する復興支援員に対し、活動する上での課題の解決や、活動終了後の地域定着を見据えた支援を行うほか、被災地域の現状と課題・優良事例を関係者間で共有することで、広域の連携促進と復興支援活動の活性化を図る。

事業の実施体制

本事業は、(一社)東北圏地域づくりコンソーシアムが受託し、地星社と宮城県サポートセンター支援事務所、(一社)東北まちラボが協力団体として参画して実施したものである。2018年度から参加しており、今年度で3年目だった。

業務内容

- ①復興支援員活動の後方支援(現場ヒアリング、研修、意見交換会、成果報告書)
- ②みやぎ地域協働・人材支援システム研究会
- ③関連する会議への出席(企画運営会議、実務者会議)

(担当:布田)

成果と今後の課題

復興支援を平時の地域づくりに移行し、根付かせていく上で、地域福祉・コミュニティ・NPO支援の縦割りを超えた伴走支援をしきみにしていくことの重要性を昨年度に引き続き伝えていくことができた。宮城において具体的にどのような形でそれを実現していくかはなお今後の課題である。

復興支援員設置状況(2020年度・予定)

自治体名	活動地区	人数
気仙沼市	全域	3
石巻市	中央(中心市街地等)	3
	北上	3
	雄勝	17
東松島市	全域	2
	全域(主に宮戸)	6
多賀城市	全域	1
丸森町	筆甫地区	3
	耕野地区	1
合計		39



作成した成果報告書の表紙

活動実績

種類	実施内容
復興支援員活動の後方支援	○ヒアリング 2団体を担当した。 ○研修 研修1 地域支援について(8月6日) 研修2 ファシリテーションとは(8月6日) 研修3 地域に見える化(オンデマンド) 研修4 地域に見える化(8月28日) 研修5 地域に見える化(9月10日) 研修6 ワークショップデザイン(9月28日) 研修7 模擬実践(9月28日) 研修8 ふりかえり(10月26日) ○意見交換会 コロナ禍における地域活動をどう支えるか(2月24日) ○成果報告書 2団体分のヒアリング記事作成を担当した。
地域協働・人材支援システム研究会	第1回 住民自治組織への支援(1月19日) 第2回 県域の支援(2月8日) 第3回 地域福祉の人材育成(2月10日)
関連する会議への出席	実務者会議 6回 企画運営会議 2回

事業概要

目的

岩沼市内でのまちづくりや地域づくりにつながる活動の促進のために実施する。

事業の実施体制

本事業は、岩沼市の委託事業として実施した。(特活)せんだい・みやぎNPOセンターも本事業を受託しており、必要に応じて同センターと情報交換をしながら事業を実施した。

実施内容

いわぬま市民交流プラザで月1回開催される市民活動相談に相談員を派遣し、岩沼市内で活動する市民活動団体の運営相談にあたった。

なお、せんだい・みやぎNPOセンターも月1回、別の日程で行われる市民活動相談を担当しており、合わせて月2回の市民活動相談が実施された。

(担当: 布田)

今後の展開

岩沼市内で活動している市民活動団体はそれほど多くはなく、相談件数自体も少ない。市民活動を促進するための研修や、活動の担い手を増やす取り組みも必要と思われる。

インタビューにより復興支援団体の10年の活動の価値をまとめ、ウェブで発信しました。

事業概要

事業の背景と目的

震災から9年が過ぎ、その一方、他地域で災害が相次ぎ、また世界的な新型コロナウイルスの流行もあり、復興支援活動に対する一般的な関心は薄れてきている。しかし、支援活動の必要性が必ずしも過去のものになったわけではない。むしろ、活動を積み重ねた今だからこそその価値を伝え、活動への新たな支援につなげていく必要がある。

そこで、復興支援団体を対象に震災から10年の活動についてインタビューを行い、支援活動の価値を記事にまとめ、ウェブで情報発信することで、団体への支援につなげることを目的として実施した。

実施内容

宮城県内で復興支援活動に継続的に取り組んできた団体を対象にインタビューを行い、ウェブ記事を作成した。

また、インタビュー記事と併せてハイライト動画を作成し、ウェブに掲載した。

(担当: 布田、赤川)

成果

インタビューを通して、復興支援団体がこの10年の間に積み重ねてきた活動の価値をまとめることができた。在宅被災者支援の問題など、震災後10年経ってもなかなか世の中には知られていない課題について、改めて現在の状況を示し、今後の支援の必要性を伝えることができた。

また、団体によっては、インタビューしたことがクラウドファンディング実施の際の広報に間接的に役立ったという効果もあった。

インタビュー先一覧

インタビュー先団体	主な活動地域	インタビュー対象者	取材日
(特活)奏海の杜	登米市	太齋京子さん(代表理事)	9月15日
(特活)ポラリス	山元町・福島県新地町	田口ひろみさん(代表理事)	9月24日
(一社)ReRoots	仙台市若林区	広瀬剛史さん(代表理事)	9月30日
(特活)仙台傾聴の会	仙台市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町	森山英子さん(代表理事)	10月14日
(一社)まなびの森	角田市、大河原町、山元町、亘理町、丸森町	坂本一さん(代表理事)	10月19日
宮城県サポートセンター支援事務所	宮城県沿岸被災地	真壁さおりさん(コーディネーター)	12月8日
(一社)チーム王冠	石巻市	伊藤健哉さん(代表理事)	12月18日

インタビュー記事はブログ「フィールドノート」に掲載しました。

フィールドノート カスタマイズ 0 新規 投稿を編集 インサイト こんにちは、chiseisha さん

フィールドノート

フィールドノート > 石巻・女川・東松島 > 在宅被災者に気づき、寄り添い、一人一人の状況に合わせた支援／チーム王冠 代表理事の伊藤健哉さんへのインタビュー

在宅被災者に気づき、寄り添い、一人一人の状況に合わせた支援／チーム王冠 代表理事の伊藤健哉さんへのインタビュー [編集](#)

© 2021/03/26 chiseisha



一般社団法人チーム王冠は、石巻を中心にして在宅被災者に寄り添い、個別のケースに応じた支援を続けている団体です。代表理事の伊藤健哉さんに活動の始まった経緯や現在の

このサイトは、東日本大震災の被災地の現場で復興支援活動を行っている団体、機関の方へのインタビュー記事を掲載していきます。復興支援に関心を持つ人たちの間で、被災地における課題を共有することが目的です。NPO法人地星社が運営しています。→詳細はこちら

リンク

地星社 >

最近の投稿

在宅被災者に気づき、寄り添い、一人一人の状況に合わせた支援／チーム王冠 代表理事の伊藤健哉さんへのインタビュー >

市民ソーシャルワーカーの人材を育成し、サポートした10年／宮城県サポートセンター支援事務所 コーディネーターの真壁さおりさんへのインタビュー >

被災した子どもの学習支援や不登校の子どもの支援／まなびの森 代表理事の坂本一さんへのインタビュー >

被災者のそばに寄り添い、傾聴活動による支援／仙台傾聴の会 代表理事の森 >

チーム王冠のインタビュー記事

インタビューのハイライト動画を作成し、記事と一緒に掲載しました。



奏海の杜のインタビュー動画

※動画の作成にあたってはNPO法人メディアージの協力を得た。

ライター講座を通して、地域人材育成に取り組みました。

事業概要

目的

地域人材を育成すべく、地域の人々が市民ライターとして、被災地をはじめとする地域の課題や取り組みについて調べる・伝える実践の場をつくる。市民ライター養成講座の開催によって、地域活動に関心を持つ人が地域に関わるきっかけをつくり、かつ地域の情報を発信するスキルを学べるようにする。

以上の学びと実践の場は次年度以降も継続的に運営し、持続的な地域人材育成のサイクルを生み出していく。

実施内容

書くことや地域活動に関心を持つ市民を対象に、取材やライティングについて実践しながら学ぶ市民ライター講座を開催した。

取材先は名取市内で地域の課題に取り組んでいる団体とした。取材記事は地星社のブログに掲載して発信した。

(担当: 布田、赤川)

補助

本事業は、令和2年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業の補助を受けて実施した。

成果

ソーシャルライター講座を通して、受講者の取材やライティングスキルが向上し、復興支援活動や地域課題への理解や関心が高まった。また、受講者は立場の違いによる社会的課題の見え方の違いや、他者理解の重要性について学んだ。

実施スケジュール

日程	内容
8月～9月	受講者申込受付
10月24日	講座第1回 地域の課題・活動団体を知る
11月7日	講座第2回 取材の仕方、記事の書き方
11月26日	講座第3回 情報の整理の仕方
11月～12月	地域活動団体の取材
12月	取材記事第一稿提出、添削
1月16日	講座第4回 原稿の読み合わせ、ブラッシュアップ
2月	取材記事第二稿提出、添削
3月14日	ふりかえり会(講座第5回)
3月	最終原稿提出・記事公開

講師

谷津智里さん(編集・ライティング・Bottoms House
管理人／第2回・第3回・第4回担当)

布田 剛(地星社代表／第1回担当)

対象

書くことや地域課題に関心を持つ人(定員6名で募集し、7名が受講した)

実施方法

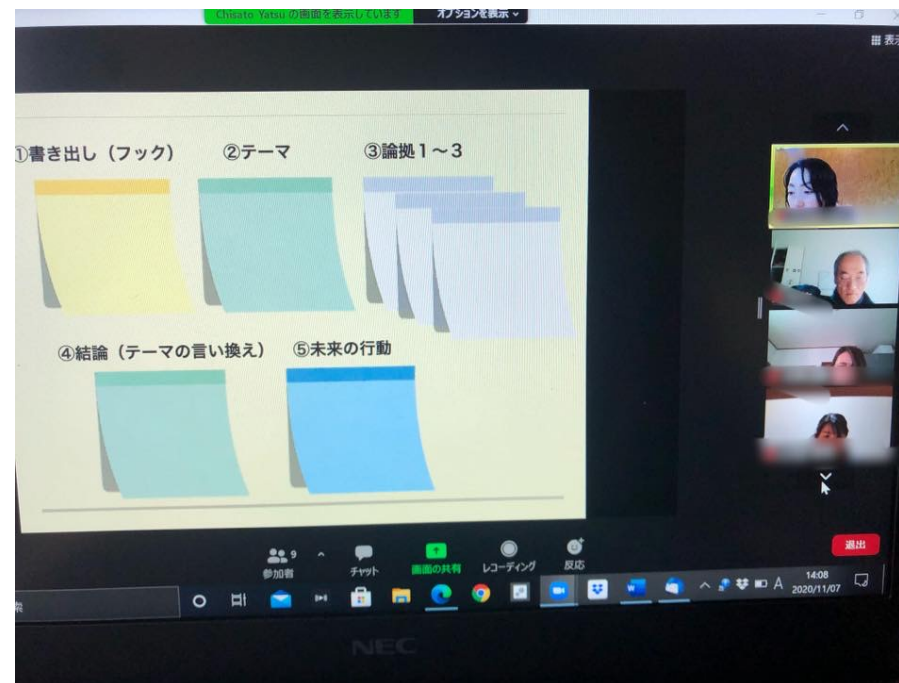
講座はすべてZoomで行い、取材は基本的に団体を訪問して行った。

名取市内で活動する5つの団体の方々に取材しました。

取材先一覧

取材先団体	取材対象者	取材日
名取市手をつなぐ育成会	山川美和子さん(会長)	11月18日
(一社)ふらむ名取	格井直光さん(代表理事)	11月21日
みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター	板橋真美さん、板谷学さん	11月23日
ワッショイ！DEN×3	武田昭夫さん(代表)、武田清一さん	11月27日
閑上太鼓保存会	三浦勝治さん	12月19日

Zoomで実施した講座の様子



取材の様子(みちのく潮風トレイル 名取トレイルセンター)



受講生の取材記事を地星社のブログに掲載しました。

 Hatena Blog

記事を書く
 購読リスト
 chiseisha
 Hatena

地星社のブログ
 社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援する宮城の非営利組織、地星社のブログです。

2021-05-30

2021-05-30

多世代がゆるやかにつながる地域づくり～笑顔の輪広がる下増田の実践～

ソーシャルライター講座

「ワッショイ！DEN×3」は、名取市下増田地区にて、多世代交流イベントを通して地域を盛り上げている団体です。下増田の住民たちが地域資源を活用して、サツマイモの栽培や収穫を行う親子体験、地域の歴史探訪などの活動を行い、魅力ある地域づくりに取り組んでいます。世代を超えた新たな交流を目指す活動の様子を取材しました。

■取材先：代表 武田昭夫さん、メンバー 武田清一さん（ワッショイ！DEN×3）
 ■取材日：2020年11月27日
 ■取材・文：沖澤 鈴夏
 ■団体概要：
 団体名 ワッショイ！DEN×3
 所在地 名取市美田園7丁目22-3

わくわくするアイデアが、地域活動の種に



プロフィール



chiseisha NPO
 社会をよりよくする活動を行っている人や組織を支援する宮城の非営利組織、地星社のブログです。

読者になる
 2

検索

記事を検索
 

最新記事

2020年度ソーシャルライター入門講座 受講生取材記事

「心をひとつに」～人と人のつながりを取り戻したい！
 大好きな閑上をもう一度
 多世代がゆるやかにつながる地域づくり～笑顔の輪広がる下増田の実践～
 太鼓で閑上に元気を！全国に感謝を！
 あなたも始めませんか、トレイル！ スタッフが優しく丁寧にサポートします！！

カテゴリー

ソーシャルライター講座 (15)
 NPOと寄付 (5)
 地星社のこと (6)
 NPOと助成金 (5)

ワッショイ！DEN×3の取材記事

講師派遣等

内容	主催	実施日	担当
宮城県民間非営利活動促進委員会勉強会 発表者	宮城県民間非営利活動促進委員会	9月14日	布田
LINK～被災3県の「今」そして「これから」も支え合う地域社会を目指して 登壇者	(特非)いわて連携復興センター・ (一社)みやぎ連携復興センター・ (一社)ふくしま連携復興センター	10月21日	布田
認定NPO法人申請講座 講師	宮城県(みやぎNPOプラザ)	11月6日	布田
みやぎ復興官民連携フォーラム 登壇者	「新しい東北」官民連携推進協議会	11月18日	布田
栗原南中学校教員研修 講師	栗原南中学校	12月25日	赤川

宮城県NPO等の絆力を活かした復興支援事業（マッチング・交流事業）

本事業は宮城県の委託事業で、(特活)杜の伝言板ゆるるを代表団体とする、(特活)にじいろクレヨン、(一社)気仙沼まちづくり支援センター、地星社の4団体のグループで受託して実施したものである。

石巻会場、気仙沼会場では、復興支援団体が参加し、東日本大震災からの10年の活動について振り返り、「連携」をキーワードにワークショップを行った。仙台会場では、絆力補助事業の成果報告会と併せて実施された。

地星社では、3会場すべてで話題提供として発表を行った。(担当:布田)

内容	開催日	開催地
絆力 石巻地域情報共有交流会	1月25日	石巻市
絆力 気仙沼・南三陸地域情報共有交流会	1月29日	気仙沼市
宮城県NPO等の絆力を活かした復興支援事業 成果報告会&情報交換会～これからの地域での活動と協働のあり方～	3月18日	仙台市

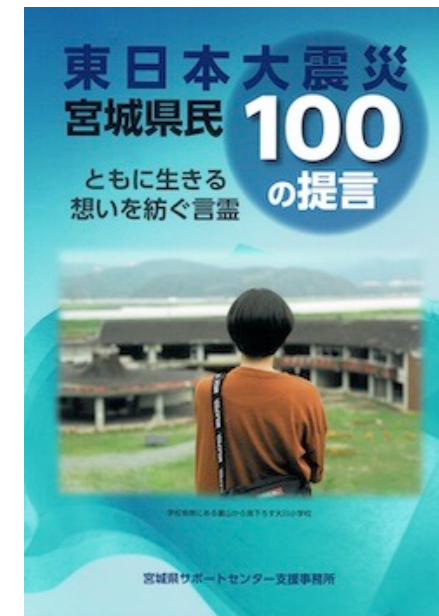


石巻会場での発表の様子

東日本大震災 宮城県民100の提言編集委員会

東日本大震災の被災者や被災者支援団体関係者100人の原稿を集めた『東日本大震災 宮城県民100の提言』（発行：宮城県サポートセンター支援事務所）の編集委員会に参加し、執筆依頼や原稿の校正を行った。
（担当：布田）

内容	日程
編集委員会	8月26日
原稿締切	10月31日
原稿提出	12月
編集委員会	1月14日
原稿校正	1月
編集委員会	3月19日



完成した『東日本大震災 宮城県民100の提言』の表紙

NPOサポートリンクへの参加

被災三県の間接支援NPOのネットワークであるNPOサポートリンクに昨年度から引き続き参加し、会議や勉強会に出席した。また、NPOサポートリンク参加団体を中心に行っているとうほくNPOフォーラム実行委員会には、他の業務との兼ね合いで20年度は参加しなかった。

内容	開催日	開催地
第5回勉強会	6月25日	仙台市
第9回リンクアップ会議	6月26日	仙台市
第6回勉強会	9月16日	盛岡市(オンライン参加)

Yahoo!基金 NPOの知らせるカプロジェクトへの参加

Yahoo!基金が主催し、日本NPOセンターと朝日新聞ジャーナリスト学校が協力して実施している、NPOスタッフ向けの講座(書き手講座・選抜講座)に参加した。選抜講座の課題として作成した記事「東日本大震災10年、ようやく光が当たり始めた「在宅被災者」」はYahoo!ニュースに掲載された。

(担当: 布田)

内容	日程
書き手講座 第1回	8月20日
書き手講座 第2回	9月8日
選抜講座	10月13日
講師との面談 第1回	11月6日
講師との面談 第2回	1月28日
Yahoo!ニュース記事掲載	2月26日



Yahoo!ニュースに掲載された記事

各種委員等

岩沼市市民活動助成審査会委員、いわぬま市民交流プラザ運営協議会委員を務めた。

原稿執筆

大阪ボランティア協会が発行する市民活動情報誌『ウォロ』2021年2・3月号の「被災地の今」の原稿を執筆した。

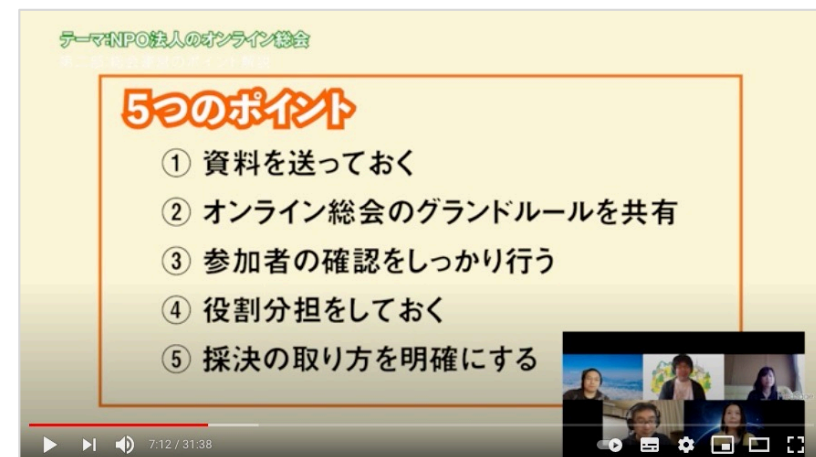
(以上、布田が担当)

地星社ラジオ

オンライン総会のシミュレーションを行い、実施のポイントをまとめて動画に編集し、YouTubeで「地星社ラジオ」として公開した。

オンライン総会のシミュレーションと動画編集にはNPO法人メディアージの漆田義孝さんの協力を受けた。

(担当: 布田、真壁、菊池、赤川)



NPO法人のオンライン総会(地星社ラジオ)

地星社の事業や組織のあり方について、理事会で活発な議論を行いました。

会議の開催／監査の実施

下記の通り理事会を11回開催し、事業進捗や今後の事業計画について議論した。また、監査を実施し、通常総会を開催した。

実施日	会議	主な議題	出席者	会場／実施方法
4月9日	理事会	就業規則、今年度事業、新型コロナ対応	理事4名、監事2名	Zoom
5月7日	理事会	就業規則、オンライン総会の開催	理事4名、監事1名	Zoom
6月11日	理事会	総会に付議すべき事項	理事4名、監事2名	Zoom
6月14日	監査		理事1名、監事2名	名取事務所 (Zoom併用)
6月27日	総会	事業報告・決算の承認、事業計画・予算の報告、意見交換	正会員10名、賛助会員個人2名	Zoom
7月9日	理事会	新理事候補、今後の事業の方向性	理事4名、監事1名	名取事務所 (Zoom併用)
8月6日	理事会	新理事候補、今後の事業の方向性	理事4名	Zoom
10月8日	理事会	中間支援のあり方、代表理事の働き方(日数等)	理事4名、監事1名	Zoom

次ページに続く

会議の開催（前ページの続き）

実施日	会議	主な議題	出席者	会場／実施方法
11月12日	理事会	次年度事業の方針	理事4名、監事1名	Zoom
12月10日	理事会	次年度事業の方針	理事4名、監事1名	Zoom
1月14日	理事会	次年度事業の内容	理事4名、監事1名	Zoom
2月18日	理事会	次年度事業の内容	理事4名	Zoom
3月17日	理事会	新理事候補の紹介、予算案	理事4名、オブザーバー2名	Zoom

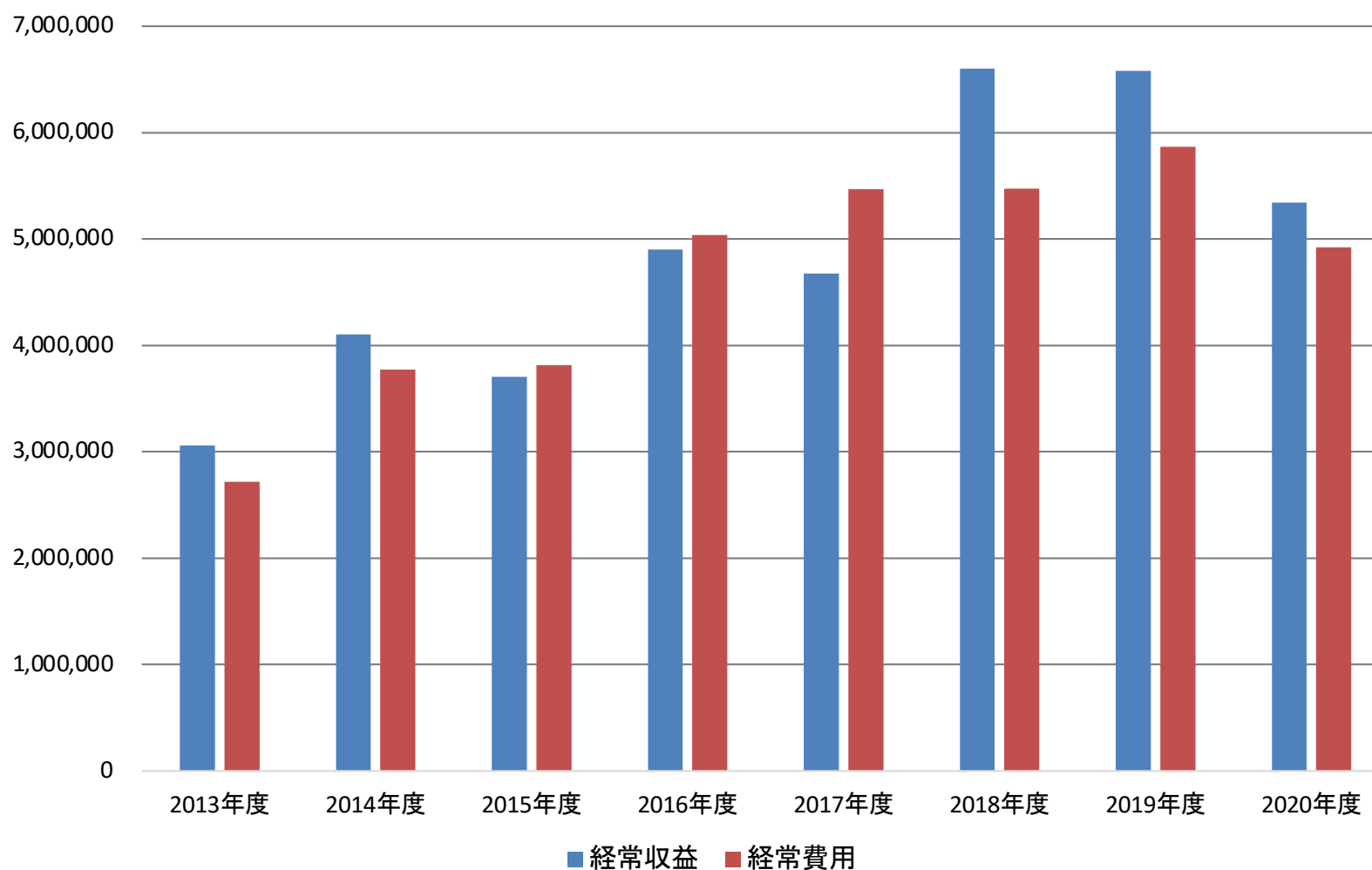
認定NPO法人の更新

認定NPO法人の更新が決定した（有効期間：2020年3月31日～2025年3月30日）。

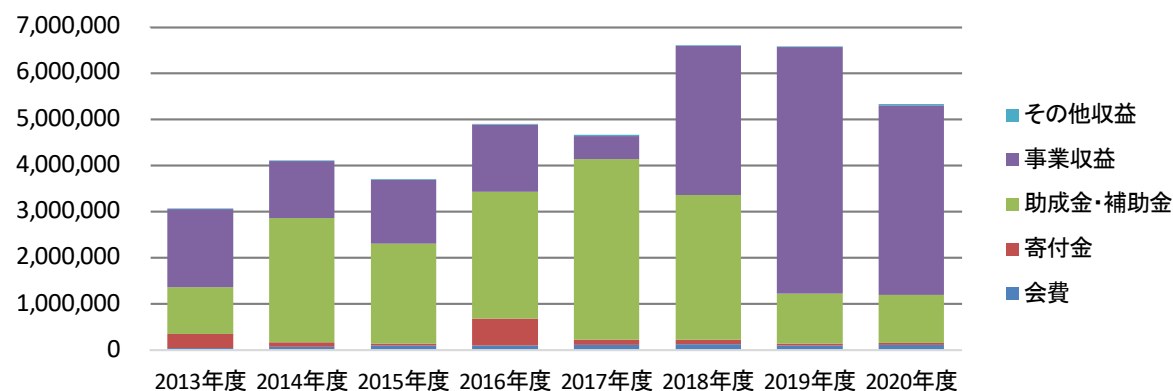
オンラインシステムの利用

会計ソフトをオンラインシステムのfreeeに移行した。オンライン業務システムのkintoneを導入し、業務日報や相談記録の作成などに利用した。オンライン会議システムのZoomを契約し、会議や打合せ、相談対応をオンラインで実施できるようにした。

前年度から約120万円減収となったが、経常費用も減ったことで黒字を確保しました。



総収入に占める事業収益の割合が昨年に引き続き多くなっています。

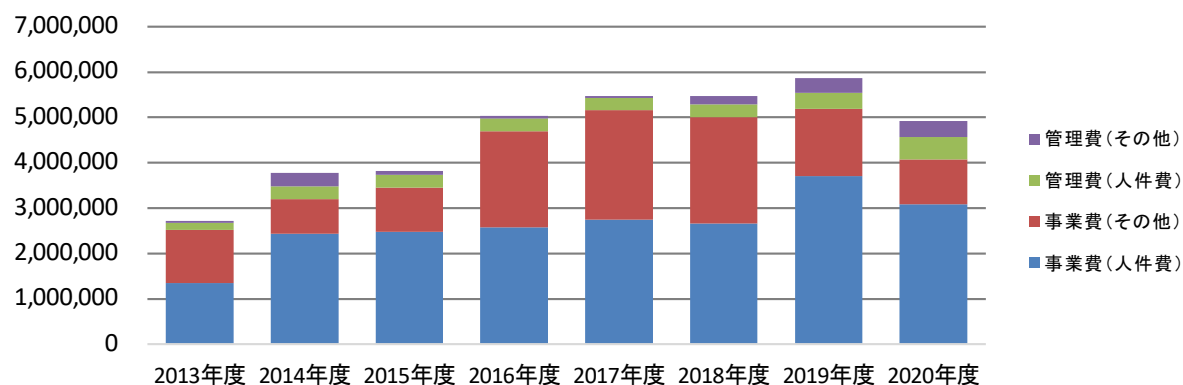


19年度と同様に総収入に占める事業収益の割合が大半となった。

例年に比べて移動が少なくなり、旅費交通費や通信運搬費などが減ったため、全体的なコストは減少した。そのため、総費用に占める事業費人件費の割合が高くなった。

会費・寄付金の額は前年度と同レベルで、総収入に占める割合は約3%と少なかった。

経常収益の推移



経常費用の推移

多くの方のご協力により、事業を進めることができました。改めて御礼を申し上げます。

謝辞

「復興支援団体インタビュー記事作成」および「ソーシャルライター入門講座」は、宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業の補助を受けました。絆力補助金は16年度以来5回目の補助となりました。

資金支援のほか、20年度も連携団体や会員のみなさま、多くの協力者の参加や協力によって事業を実施し、成果を収めることができました。

みなさまからのあたたかいご支援に対し、心より感謝を申し上げます。

ご寄付のお願い

地星社への引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。なお、地星社への寄付は寄付金控除の対象となります。

寄付金受入口座	
金融機関	ゆうちょ銀行 二二九(ニニキュウ)店(229)
口座名義	特定非営利活動法人地星社
フリガナ	トクヒ)チセイシャ
種別／口座番号	当座 0112957
* ゆうちょ銀行からは「02220-3-112957」にお振り込みください。	

名称	特定非営利活動法人 地星社
法人設立	2013年3月1日（任意団体設立 2012年9月1日）
所在地	宮城県名取市大手町5-6-1
役員	理事：布田剛（代表）、真壁さおり（副代表）、 河合豪雄、菊池遼 監事：石山由美子、高橋陽佑 （任期：2019年7月1日～2021年6月30日）
スタッフ	常勤：布田剛 非常勤：赤川泉美
会員数	正会員12名、準会員（賛助会員）12名、3団体
URL	https://chiseisha.org
メール	office@chiseisha.org

（2021年3月31日現在）